

(様式2)新規評価シート

建設部 都市・まちづくり課

事業名	県単街路事業			路河川名等	(都)国道141号線				
事業毎の通番	1	市町村名	小諸市	箇所名(ふりがな)	市町(いちまち)				
事業目的	(都)国道141号線は、小諸I.Cと小諸市中心市街地を結ぶ街路である。前後の区間は改良済みであり、当区間は未改良となっている。現道は幅員が狭く、大型車とのすれ違いが困難である。反面、救急車両、大型車両等の通行が多く、歩行者も危険にさらされている。このため、現道拡幅を行い、通行の安全向上を図り、地域の経済活動活性化に寄与する。								
しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)			事業実施の根拠法令等	都市計画法				
関連する事業、計画等	小諸市都市計画マスタープラン								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量：6,660台/日								
着手年度	平成27年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
完成年度(見込み)	平成30年度	費用対効果	1.8		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路拡幅改良工 L=250m W=6.0(12.0)m			500,000		45,000	364,000	91,000	
年度事業内容(主な工種)	H27 用地買収A=950m ² 工作物補償 一式			47,000		6,345	0	40,655	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道整備による通学の安全確保。災害時の避難機能を有する道路整備により、防災機能の向上を図る。							
	間接的効果(定量的・定性的)	沿道の住環境の整備や、集約型まちづくりを推進する。							
評価の視点	必要性	○計画自動車交通量 6,660台/日 ○交通結節点アクセス(1次アクセス) 上信越自動車道小諸IC ○地域の骨格・環状を形成 小諸ICから小諸厚生総合病院(第2次医療病院)間最短ルート						評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 中心拠点誘導施設整備事業・懐古園大手門公園再整備事業等 ○緊急輸送道路等の路線指定 諸ICから小諸厚生総合病院(第2次医療病院)間最短ルート						評価	B
	効率性	○費用便益比(B/C) 1.82 ○事業期間 4ヶ年						評価	A
	緊急性	○現況の歩道幅員 通学路指定されている ○現況の歩道 歩道なし ○車の通行の確保(現況) 車道W=5.0m 橋梁部 W=4.9m ○通学路対策 通学路指定有り						評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有 H25~H26 地元説明会 4回開催 ○地域の取り組み 事業に対し積極的な協力有り ○地域の合意形成 合意形成が図られている						評価	A
	部意見	事業の重要性が高いため平成27年度より新規事業化を図る。	行政改革課意見	小諸インターに接続する路線であることから、必要性は認められる。			評価結果	総合評価	○ B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

全体計画L=250m W=6.0(12.0)m

H27 用地補償

事業箇所

【整備の必要性がわかる状況写真等】

① ②

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(都)国道141号線は、小諸I.Cと小諸市中心市街地を結ぶ幹線街路である。前後の区間は改良済みであり、当区間は中抜け区間となっている。現道は幅員が狭く、大型車とのすれ違いが困難である。しかし、救急車両、大型車両等の通行が多く、歩行者も危険にさらされている。このため、地元より現道拡幅を行い、通行の安全向上を図るよう、要望されている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小諸市及び小諸市立水明小学校PTAより道路整備に係る要望有り。
③事業説明等の経緯	平成25年度から26年度にかけ、地元説明会を4回開催実施。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	小諸市施行の中心拠点誘導施設整備事業・懐古園大手門公園再整備事業・高次都市施設整備事業と合わせ市街地整備
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	沿道環境の向上。道路法面の緑化及びこの緑化における在来種の使用。
⑥地域活性化への影響と配慮	通学児童をはじめとする歩行者が安全に通行でき、防災機能を有する道路と、沿道の住環境が同時に整備されることにより、安心して暮らせるうつくしいまちづくりの推進が期待される。
⑦その他	

事業概要説明図表

事業周辺環境

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36-20-03.6
東経:E 138-25-11.4